

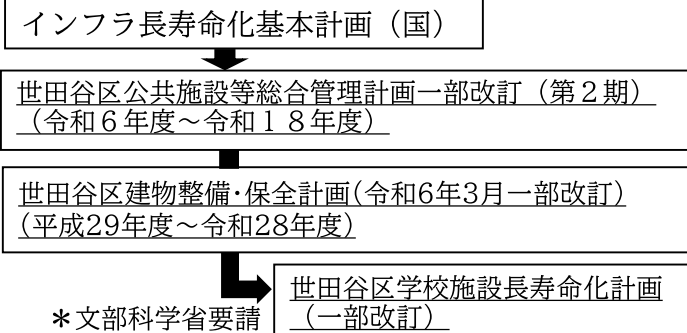
世田谷区学校施設長寿命化計画(一部改訂)【概要版】

※下線は一部改訂により更新した内容を示す

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等(本編p.2-3)

- (1)背景 多くの学校施設は老朽化が進み、今後、更新時期を迎えるため、多額の財政支出が危惧される。
- (2)目的 財政負担の軽減、平準化を図るため、長寿命化を推進し、計画的な老朽化対策に取り組む。
- (4)計画期間 令和6年度～令和18年度(13年間)
- (5)対象施設 小学校:61校 中学校:29校 幼稚園:8園

(3)計画の位置付け



第2章 学校施設のめざすべき姿(本編p.4)

令和6年度から令和10年度の計画で「世田谷区教育振興基本計画」を取りまとめ、実施計画(行動計画)の取組み項目として教育環境の整備を示している。教育環境の整備として以下の項目を学校施設の目指すべき姿とし、その実現に向けて取り組む。

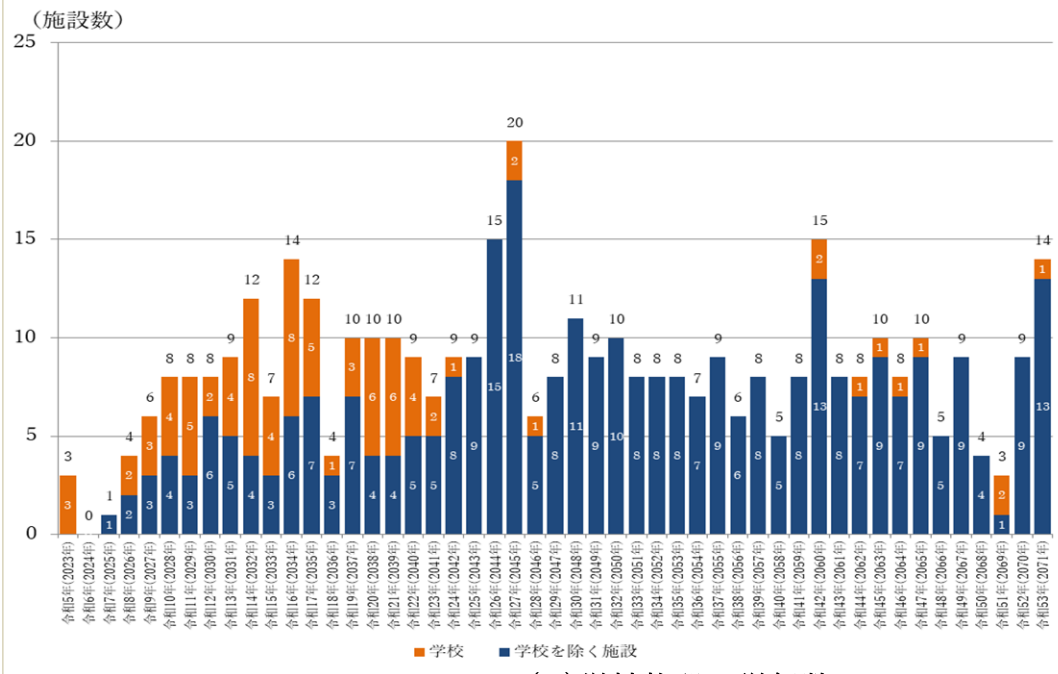
- ①円滑な学校改築の推進
- ②安全・安心の学校施設の改修・整備
- ③小学校35人学級に対応した普通教室の確保
- ④環境に配慮した学校づくり

第3章 学校施設の実態と課題(本編p.5-21)

(1)学校施設の面積割合

区が保有・管理している公共施設の延床面積約132万㎡の内、学校施設は、約72万㎡と全体の約55%を占めている。

(2)令和18年度までに築65年を迎える建物



(3)学校施設の築年数

残年数	小学校数	中学校数
0～5年	3	8
6～10年	18	4
11～15年	13	3
16～20年	6	4
21～25年	1	3
25～30年	0	2
31年以上	20	5
計	61	29

(4)学校施設の学級数

学級数	小学校	中学校
31学級～	2	0
25～30学級	11	0
19～24学級	20	3
12～18学級	26	10
6～11学級	2	16
～5学級	0	0

(5)児童・生徒数の推移・推計

令和5年5月時点で、児童数37,864人、生徒数11,617人(児童は特別支援学級、生徒は特別支援学級及び夜間学級除く)となっており、「世田谷区将来人口推計」(令和5年7月)では、令和5年以后児童数は減少、生徒数は増加傾向が続くものと予測している。

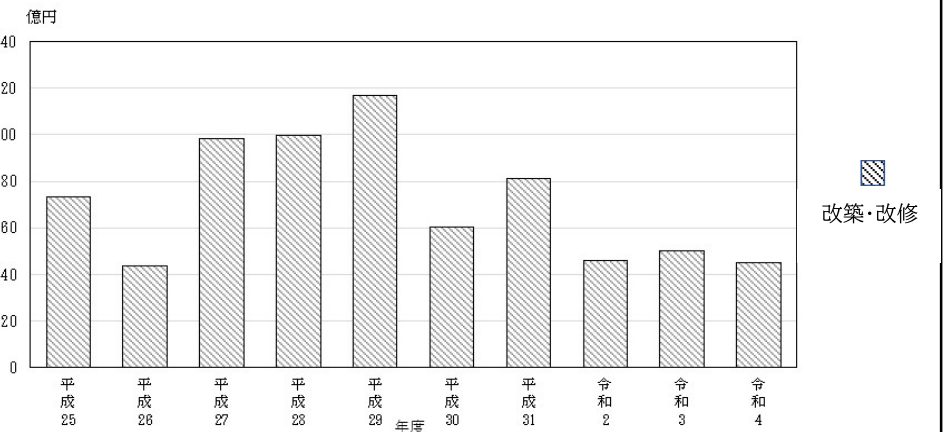
(7)光熱水費の推移

光熱水費は、年間平均約14億円で推移していたが、令和4年から燃料費の高騰により急激に上昇している。

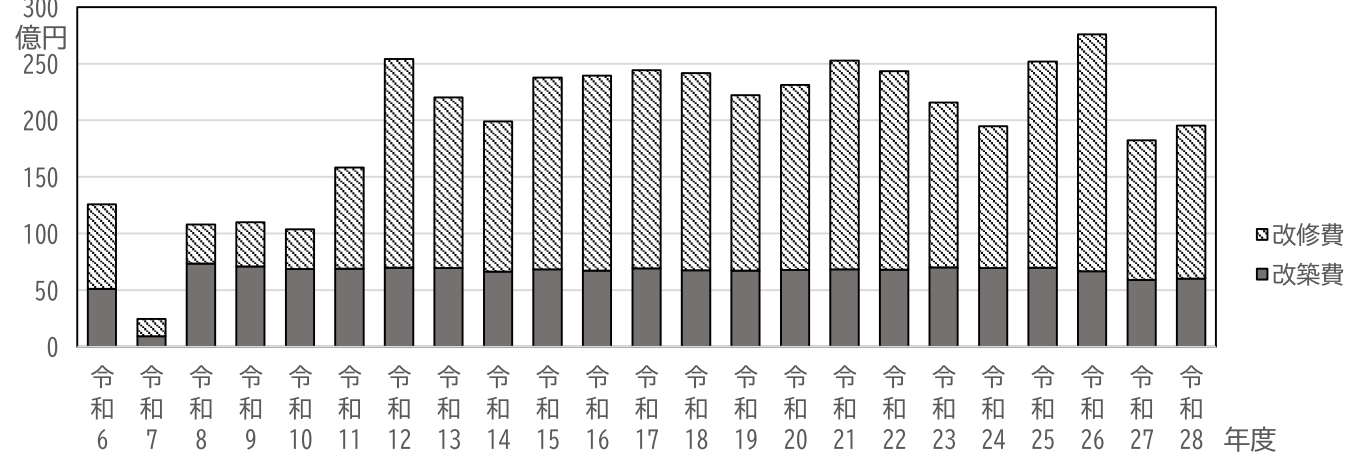
(8)将来コストの見通し

今後、順次、多くの学校が更新時期を迎えることから、令和12年度以降、年間経費が200億円を上回る状況が続く見通しである。

(6)改築・改修等の整備費の推移



改築・改修等整備費推計



第4章 学校施設の整備に関する基本的な考え方（本編p.21-26）

(1)改築、長寿命化、保全改修の基本的な考え方

- ・年3校を基本とした計画的な施設更新を実施する。
- ・設計施工一括発注方式などの活用を検討し、着実な施設更新を図る。
- ・学校内の各棟を同時に更新する「棟別全棟整備」を基本とする。
- ・長寿命化改修が可能なものは、築65年よりさらに30年程度使用する。
- ・機能転用や、区民利用促進等を見据えた設計により、柔軟性のある整備を行う。
- ・仮設校舎の共同利用、仮設校舎の縮小化や建設しない改築方法により、工期短縮や経費抑制を図る。
- ・他の公共施設との合築による「複合化」や一部転用、共有化などにより「多機能化」を徹底する。

(2)学校施設の老朽化対策

長寿命化が可能な建物については、必要に応じて使用期間を30年程度延伸する長寿命化改修を行っていく。改築または長寿命化の判断については、各建物の環境面や性能面を踏まえて検討し、次に改築及び長寿命化改修にかかるコスト等を勘案して判断する。

(3)長寿命化の実績

深沢中学校 一部改築・長寿命化改修(平成25年度～平成29年度)

(4)周期的改修・整備及び長寿命化改修のフロー

平成23年以降に竣工した学校の維持保全改修は、概ね20年周期とし、築45年目頃に長寿命化調査をした上で、整備手法などを総合的に判断する。

第5章 基本的な考え方等を踏まえた施設整備（本編p.27-30）

(1)改築の進め方

機能の効果的かつ効率的な整備とともに、施設整備にかかる経費の抑制につながる取組みとして①複合化の推進、②機能共用化を前提とした設計、③施設整備における法的制限への対応、④効率的で効果的な整備を行っていく。

(2)改修等の進め方

学校施設の活用の方針などを考慮し、①安全面、②機能面、③環境面の観点を中心に、学校施設ごとの状況や社会的要請等を踏まえ必要に応じた改修を行う。

(3)長寿命化の整備水準等

既存建物の躯体を活かし、フルスケルトンによる改修を行い、バリアフリー化、環境負荷低減の措置を施し、建物の長寿命化とともに、教育環境の質的向上を図る。

(4)予防保全への取り組み

施設の状態の把握と不具合を未然に防止するため、日常点検とともに定期点検や自主点検の結果を踏まえた「予防保全」に取り組む。

第7章 長寿命化計画の継続的運用（本編p.38）

(1)現状データの蓄積・活用

法定・日常点検結果、改修・修繕履歴のデータを蓄積し、改修計画に活用する。

(2)推進体制の整備

適切な維持・保全に向け、学校、関係部署との連携を図る。また、包括管理業務委託の導入や他の公共施設等との複合化など、関係部署と連携し検討していく。

(3)計画の見直し

総合管理計画の改訂や社会情勢等の変化に応じて見直しを行う。

第6章 学校施設の長寿命化に向けた実施計画（本編p.34-36）

(1)改築・長寿命化等の優先順位の考え方

次期改築校の選定は、築65年を迎える老朽化した施設、耐震性能や児童・生徒数の増加状況、他の公共施設等との複合化などを総合的に勘案し、総合管理計画一部改訂（第2期）の計画期間の区分けに合わせ、前期、中期、後期それぞれの施設更新対象校を各期の初めに明らかにする。



(2)多様な教育活動の展開に対応するための施設の整備

各学校や地域の特色を生かした、新たな学びの創出の取組みに対応可能な施設の整備について検討を進める。

(3)学校プール整備の考え方

拠点となる学校に簡易温水プールを整備し、複数の近隣校で利用することで、安定的な授業の実施などにつなげるプールの共同利用に取り組む。

(4)地域コミュニティの核としての役割を担う施設の整備

学校と地域の連携を進めるとともに、地域利用が柔軟にできる施設、設備を整備する。

(5)災害発生時に備えた施設の整備

大規模な災害時に避難所となる学校施設に必要な設備を防災倉庫やマンホールトイレ等の設置を行う。また、発災直後の情報発信や情報収集に必要となる非常用電源の配備とともに、災害時に施設のうち1室は、体調不良者や要支援者の避難に対応できるよう、室温調整が可能となる電源や設備を確保することを基本とし、各校の状況に応じた対応を行う。

(6)学校緑化と環境に配慮した施設の整備

「世田谷区公共建築物ZEB指針」などに基づき、環境負荷軽減に向けた施設整備を進める。

(7)計画期間のコストの見通し

第一に学校施設の改修等にあたっては、定期点検や現場調査等により学校施設の現況を把握し、緊急性の高い部位や設備を精査して実施する。

第二に公共施設等総合管理計画の建物整備・保全計画(令和6年3月一部改訂)に示す方針に従ってコストの削減を図る。

第三に整備方針検討時に拠点となる仮設校舎の共同利用や仮設校舎を建設しない改築・長寿命化方法について検討を